

# おおつの歴史的風土と景観特性

## 歴史景観の特性

近江大津京が開かれてから、歴史の表舞台に登場し、その後も歴史上の重要な地域として発展し、歴史と文化を積み重ねてきました。随所に各時代の歴史的な資産やまちなみが散りばめられ、琵琶湖と美しい山々と一体となって特徴のある景観を形成しています。

大津市は、国宝・重要文化財などを数多く有し、その数では全国第5位となっています。

坂本から下阪本付近は、延暦寺の門前町として栄えた地区で、現在も歴史的まちなみ景観を残し、伝統的建造物群保存地区に指定されています。

大津京があったとされる唐崎から長等周辺は、近江大津宮錦織遺跡やその関連史跡が、主に住宅市街地のなかに分布しており、背後の山並みと一体となって歴史的景観を今に残しています。

浜大津から膳所にかけては、京都以西の地域と東海・北陸とを結ぶ水陸交通の要衝として、またその軍事的拠点として、早くから重視され、大津城、膳所城（大津城を移設）が置かれ、城下町として発展しました。特に、大津は大津城が膳所に移った後に港として大いに発展し、歴史的なまちなみ景観や町衆文化が現在に残されています。

瀬田丘陵付近は、奈良時代から平安時代にかけて、近江国府が置かれた地域であり、一部公園整備などが進められています。

石山地域の伽藍山一帯は、石山寺の境域であり、瀬田川、石山寺と一体となって、優れた歴史的景観を形成しています。

このように大津は、琵琶湖湖岸や山地の自然環境と現在の歴史文化資産が織りなす名勝が、近江八景、琵琶湖八景のスポット的に分布し、地域の景観を特徴づけています。



比叡山延暦寺・根本中堂



近江八景/浮御堂(磯月寺)



坂本伝統的建造物群保存地区のまちなみ